

小樽港だより

2024年
No.23

発行：小樽港貿易振興協議会（Otaru Port Sales Promotion Association）

新日本海フェリー 新潟航路就航50周年

（運航会社：新日本海フェリー株式会社）



～新潟航路の歴史～

新日本海フェリー株式会社は小樽・苫小牧東と舞鶴・敦賀・新潟・秋田を結ぶフェリーを運航しており、1974年に敦賀～新潟～小樽航路が開設され新潟航路は今年で50周年を迎えます。



最初に就航したフェリー「あかしあ」（総トン数11,210トン/全長180.5m/航海速度23.0ノット/旅客定員1,387名/車両積載数：トラック119台・乗用車150台）は、当時北海道のフェリー航路では、初めて1万トンを超えるもので、内部は2層吹き抜け構造のラウンジにするなど細部まで拘っていたことが分かります。

また1977年には新潟～小樽直行便の運航が開始され、1980年には週6便に増便となり、現在では当社の中でも大変人気の航路で多くのお客様にご利用いただいております。今後もお客様に快適な船旅を過ごしていただく為に、より良いサービスの向上に努めてまいります。



1974年 就航した「あかしあ」

～貨物輸送のこれから～

ドライバーの時間外労働の上限規制強化でトラックによる長距離運送が難しくなっていく2024年問題を背景に、モーダルシフトの機運が高まっています。フェリー輸送は環境にも優しく、CO2排出量がトラック陸送と比べて約5分の1程度と言われており、有人車が長距離フェリーを利用することにより乗船中のドライバーの休憩時間を確保できるほか、交通事故リスクの回避やガソリン消費量を抑えるなどのメリットがあります。

営業活動などを通して、フェリーの認知度は年々高まっておりますが、まだ十分とは言えません。2024年問題を解決する要として今後もより一層、貨物運送業界との協力関係を維持しながら、業界全体を活気づけていきたいと考えておりますので、皆さまのご利用をお待ちしております。

【小樽港発着 運航ダイヤ】

小樽発 → 新潟着 月～土 17:00 発 → 翌 09:15 着	小樽発 → 舞鶴着 毎日 23:30 発 → 翌 21:15 着
新潟発 → 小樽着 火～日 12:00 発 → 翌 04:30 着	舞鶴発 → 小樽着 毎日 23:50 発 → 翌 20:45 着



小樽～新潟間を現在運航中の「らべんだあ」

中国定期コンテナ航路 前年比増で好調に推移

(運航会社：神原汽船株式会社 小樽港代理店：ノーススター トランスポート株式会社)

神原汽船株式会社が提供する中国定期コンテナ航路サービスは、中国主要港（上海・大連・青島・天津・寧波）から日本地方港 11 港へのダイレクトサービスとなっております。2022 年にはコンテナ航路へ新造船 6 隻を投入し、船隊全 7 隻が自社船となりました。



荷役中のコンテナ船

2023 年は、長引く新型コロナウイルスによる規制も解除となりましたが、中国の景気後退や日本の消費低迷による在庫過多も相まって、全体のコンテナ取扱量は前年比で大きく減少しました。しかしながら小樽港での取り扱いにおいては、昨年を上回ることが出来ました。これもひとえに荷主企業の皆さまの変わらぬご支援と港湾関係者の方々のご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

昨今、世界中で環境への配慮が急速に進み、国際海事機構(IMO)は 2050 年頃までに国際海運の温室効果ガス排出をゼロとすることを目標として掲げており、当社としても新造船投入のほかにバイオ燃料の実証実験を行うなど、日々CO2削減に取り組んでおります。新造船においては EEDI(エネルギー効率設計指標)フェーズ 3 に適合しており、従来船と比較し CO2 排出量を約 14%削減することができました。

【小樽港発着航海日数】

	輸入	輸出
上海	6日	4日
大連	9日	-
青島	8日	-

今後も国際海上輸送を通じて「地域の活性化と経済の発展」を目指し、荷主企業の皆さまと地元自治体及び港湾関係者の方々にとってなくてはならない存在であり続けたいと考えております。

本年も引き続き小樽港サービスの安定・普及に取り組んでいく所存でおりますので今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

「潮ねりこみ」4年ぶり参加

おたる潮まつりの最大の華「潮ねりこみ」に小樽港貿易振興協議会梯団として参加しました。協議会としての参加は、新型コロナウイルスの影響により 2019 年が最後でしたので、実に 4 年ぶりの参加となりましたが 47 名と多くの方にご参加いただきました。

当日はうだるような暑さの中でしたが、梯団は協議会の幟を先頭に花園グリーンロードからメイン会場の第 3 号



ねりこみ出発前の集合写真

ふ頭まで踊りながら練り歩き、沿道の見物客の熱気の中、大いに小樽港の PR ができたのではないのでしょうか。

今年の「潮ねりこみ」にも協議会梯団として参加したいと考えております。ぜひ多くの皆さまにご参加いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

東京地区で小樽港セミナー・懇親会を開催

小樽港の物流の活性化、利用促進に取り組んでいる当協議会ですが、2023年も東京で小樽港セミナー・懇親会を開催し、日ごろから小樽港を利用いただいている東京地区の荷主や運送業界などのお取引先様を招いて小樽港のPRと懇親を深めました。

セミナーでは「小樽港－中国定期コンテナ航路」について、運航会社である神原汽船株式会社の辻田様より講演をいただき、またセミナーに続いて開催された懇親会には前回以上に多くの皆さまにご参加いただき、大変盛会となりました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



小樽港セミナーでの会長挨拶の様子

液化水素運搬船「すいそふろんていあ」小樽港で公開

2023年4月に開催されたG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合に合わせて世界初の液化水素運搬船「すいそふろんていあ」が小樽港に寄港し、報道陣に公開されました。運搬船は川崎重工業株式会社が製造し、零下

253度まで冷却することで液化した水素75トン海上運搬することができます。水素は燃焼時等に二酸化炭素などの温室効果ガスを発生しない次世代エネルギーとして期待されており、2030年の商用化が目指されています。

4月16日には会合に参加した各国の閣僚が小樽港を訪れ、液化水素の輸送技術の開発状況を視察しました。



小樽港に停泊する「すいそふろんていあ」

小樽運河竣工100年を祝う

小樽市の観光のシンボルであり、小樽港の発展を語る上でも欠かすことができない小樽運河が2023年12月27日に竣工100年を迎えました。この記念すべき年を祝おうと市内の若手が中心となり「小樽運河100年プロジェクト」が発足され、9月16日から100日間にわたり「北運河ナイトマーケット」や「オタルオータムフェス2023」など様々なイベントが開催されました。

12月23日にはプロジェクトのフィナーレを飾る「ナイトカーニバル」が小樽港第3号ふ頭特設会場で開催。会場はこの日だけの特別な装飾が施され、クリスマスの雰囲気の中、温かな食事メニューやライブイベントを始め、おたる潮太鼓保存会による太鼓打演と打上花火のコラボレーションなどが行われ、会場を訪れた多くの市民と観光客が小樽運河竣工100年のお祝いをしました。

そして小樽運河は新たな100年に向かいます。小樽港貿易振興協議会も小樽運河の新たな歴史とともに、更なる小樽港の発展に向けて港の活性化に努めていきます。



運河竣工100年記念モニュメント

国際クルーズ4年ぶりの受入れ再開

2023年は、コロナ禍の影響で寄港中止が続いていた国際クルーズの受入が国内で約4年ぶりに再開され、小樽港では4月10日の「ル・ソレアル」の寄港を皮切りに、10月24日の「レガッタ」まで計16回の外国船が寄港しました。

この内、世界で唯一、英国王室より船名に女王陛下の名称を付けることが許された船会社として知られているキュナード・ライン社が運航する「クイーン・エリザベス」を始めとした7隻のクルーズ船が小樽港初寄港となりました。

これまで小樽港へのクルーズ船の寄港はロシアの港を経由することが多かったため、昨今のロシア-ウクライナ情勢の影響で、各クルーズ船においてはロシアの港への寄港が難しい状況下にあることから、小樽港への寄港にも影響があると危惧しておりました。しかし、多くのクルーズ船にお



初寄港したクイーン・エリザベス

いて、韓国経由への航路変更やアラスカから直接小樽港に寄港するといった対応をとるなど、変わらず小樽港に寄港いただくこととなり、大変喜ばしい結果となりました。

これに加え、「にっぽん丸」による小樽港発着クルーズ「飛んでクルーズ北海道」が引き続き実施されるなど、6回の日本船の寄港を含む計22回の寄港となり、コロナ禍前の水準に戻りつつあります。



潮太鼓による見送り行事

また、5月には新型コロナウイルス感染症の感染分類が5類になり、クルーズ船の入出港時に、小樽港クルーズ歓迎クラブを始め、市民等の参加による歓迎やお見送り行事を再開するなど、ようやく小樽港ににぎわいが戻ってきました。

さて、2024年は昨年以上のクルーズ船の寄港回数を見込んでいますが、かねてより整備を進めてきた小樽港第3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁が4月より供用開始を予定しております。これにより、市街地に隣接する第3号ふ頭ではこれまでより大型のクルーズ船の接岸が可能となります。



「小樽国際インフォメーションセンター」イメージパース

また、同ふ頭内では昨年4月から「小樽港クルーズターミナル」の供用を開始しており、クルーズ船の受入環境がこれまで以上に向上するものと考えております。

さらに、第3号ふ頭及び周辺エリアを「みなとオアシス」として登録する予定であり、同エリア内では今年3月から小樽観光振興公社による「小樽国際インフォメーションセンター」が開業予定であるほか、今後イベント広場を含む緑地整備や観光船ターミナルの建設を予定しているなど、官民連携で港周辺のにぎわいの創出を目指していきます。

小樽港貿易振興協議会（O P S）

〒047-0007 小樽市港町4番2号 TEL(0134)23-1107 FAX(0134)23-1109 小樽市産業港湾部港湾室内

【E-mail】 kowan@city.otaru.lg.jp 【ホームページ】 <https://www.city.otaru.lg.jp>

※当協議会に対するご意見・ご要望、また、各種情報等がございましたら、上記までご連絡をお願いいたします。